



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

4月新しい生活が始まりました。集団生活が初めてのお子様達は、今まで罹らなかった風邪や胃腸炎などにこれから次々と罹っていきます。一つ一つ免疫を獲得して、頑張っ乗り越えていきましょう！

～RSウイルスについて～

インフルエンザがようやく落ち着いてきたと思いきや、3月下旬からRSウイルスが流行りだしました。RSウイルスは毎年流行しますが、特に注意が必要なのは乳児です。症状は鼻水、咳、発熱で始まりますが、徐々に咳がひどくなっていきます。特に3～5病日は咳が酷くなり、哺乳量が減ったり、眠れなくなったり、咳き込んで吐いたりします。乳児では特に細気管支炎や肺炎でチアノーゼ(酸素欠乏状態)を起こすことがあり、入院が必要になることもあります。年長児では風邪症状ですが、咳や痰はしつこく、1ヶ月ほど続くこともあります。

～インフルエンザについて～

1月後半からはほとんどがB型となっています。インフルエンザB型はA型ほど重症化せず、脳炎を起こすことはまずありません。抗インフルエンザ薬であるオセルタミビル内服は、発熱期間を1日短縮する効果と、脳炎脳症抑制効果があることが知られています。一方、オセルタミビルなどの抗インフルエンザ薬の副作用には、異常行動などがあり、ほとんど重症化しないB型においては、必ずしも内服しなくても良いかもしれません。

～溶連菌感染症について～

溶連菌感染症は、相変わらず流行しています。溶連菌は飛沫感染しますが、菌が侵入しても無症状の事があります。ご家族で繰り返すときは、無症候性感染を疑って除菌治療を行うこともあります。稀に合併症の腎炎などを起こすことがありますので、治療後に検尿で確認しています。

～麻疹について～

2～3月に都内で数件の麻疹感染者が報告され注意喚起されています。経過を見ますと3月末から4月の第1週目以降新規報告はありません。麻疹ウイルスの潜伏期が約10日であることを考えると、2週連続で発生が無いということは一時収束したのかもしれません。

麻疹は空気感染で広がります。潜伏期10～12日を経て発熱を伴う風邪症状、目の充血で始まります。発熱は2～4日で一度下がりますが、その後熱が再上昇し皮膚に赤い発疹が出て来ます。発疹が出るまでは風邪と症状の区別が付きません。

～麻疹ワクチンについて～

日本では平成18年以降、MRワクチン1期2期定期接種を実施しており、大流行を起こすことはほとんどなくなりました。少し歴史を紹介すると、昭和53(1978)年に麻疹ワクチンが定期接種として導入され、それまでの百分の一から千分の一に減少しました。平成22(2010)年11月以降は日本国内での土着ウイルス発生は無くなり、海外からの持ち込みがわずかに発生するだけになっています。

麻疹発生のニュースを受けMRワクチン接種希望の問い合わせが増えていますが、MRワクチンが限定出荷となっている影響で、現在は定期接種1期の方が最優先となっております。

表：3月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌型	189
2	インフルエンザB	125
3	胃腸炎	85
4	咽頭アデノウイルス	11
5	新型コロナウイルス	7
5	インフルエンザA	7
7	RSウイルス	3
7	とびひ(伝染性膿痂疹)	3
9	突発性発疹	2
9	おたふくかぜ	2



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況は Web で**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話で**お願い致します。
- ★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

予防接種ニュース

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まりました。同時に、これまで13価だった小児肺炎球菌ワクチンが新たに15価のものが定期接種として導入されました。

